

平成29年度事業実績について

I 事業の目的

安全で商品性の高い農産物の安定供給と生産性の向上を図るため、関係機関、団体、農薬メーカー等と密接な連携を図りながら、農薬の安全・適正使用の推進を始めとして、効率的な病虫害防除の推進、新規登録農薬の普及性の実証、農業航空防除及びGAPの推進等の各種事業に取り組んだ。

II 実施事業の概要

1 農薬の安全・適正使用及び効率的な防除の推進(啓発事業)

病虫害防除に関わる関係法令を遵守するとともに、植物防疫に関する情勢の変化に的確に対応し、農産物への農薬残留事故の回避及び農薬による環境汚染の防止を図り、農薬の安全で適正な使用による安定した農業生産及び生産環境を維持することを目的として、防除業者、農薬販売業者及びJA・県等の指導員などを対象にした各種研修会を開催するなど啓発活動を実施した。特に、消費者の食の安全・安心への関心が高まる中、人の健康へのリスクと環境負荷への軽減が求められており、「宮崎方式ICM技術」確立と普及に関する啓発活動を積極的に普及を図った。

また、病虫害発生が多様化と難防除病虫害の増加に対応した効果的な防除と安全な農薬使用を推進するため、発生予察情報の迅速で適切な提供、最新の防除技術及び農薬安全使用などに関する資料を作成し、的確な提供を行った。

主な実施項目

(1) 危被害防止研修会の開催

対象者：農薬管理指導士、防除業者、農薬販売業者、ゴルフ場関係者等
研修会の内容：

- ① 農薬の安全使用について（公益社団法人緑の安全推進協会）
- ② 上手な農薬の選び方と使い方（県農業経営支援課）
- ③ 毒物及び劇物取締法（県中央、都城、延岡保健所）

表1 開催概要

開催月日	開催場所	参加者数
1月23日	宮崎市（総合農業試験場）	158名
1月24日	延岡市（社会教育センター）	28名
1月25日	都城市（ウェルネス交流プラザ）	71名
合	計	257名

(2) 植物防疫研修会の開催

(第1回)

開催日：平成29年9月19日

場 所：総合農業試験場研修棟並びに場内グラウンド

対象者：市町村、J A、経済連、農薬メーカー、農薬卸組合、農業共済連
種苗協会宮崎県支部、農薬小売商組合、県 合計103名

研修会の内容：

- ① 宮崎県におけるG A Pの推進について (県農業連携推進課)
- ② 選択性殺虫剤と天敵農薬を組み合わせた施設での害虫防除
(保全生物防除研究事務所代表 根本 久)
- ③ ドローンの農業分野での活用について
(株式会社丸山製作所)

(第2回)

開催日：平成30年3月5日

場 所：ニューウェルシティ宮崎

対象者：市町村、J A、経済連、農薬メーカー、農薬卸組合、農業共済連
種苗協会宮崎県支部、農薬小売商組合、県 合計61名

研修会の内容：

- ① ホオズキのウイルス病対策について (県総合農試生物環境部)
- ② 稲こうじ病・サトイモ疫病に対する薬剤散布時期など薬剤試験に関する成果
(県総合農試生物環境部)
- ③ 枝濡れセンサーを用いたクワシロカイガラムシの散水防除
(県総合農試茶業支場)
- ④ 斑点米カメムシ類の発生経過と被害状況
(県総合農試病害虫防除・肥料検査課)
- ⑤ 特殊病害虫の侵入警戒について
(県総合農試病害虫防除・肥料検査課)

(3) 宮崎県農薬管理指導士新規養成研修の開催

開催日：平成29年12月19日

場 所：宮崎市 県総合農業試験場 研修棟

対象者：農薬取扱者 (J A、農薬販売店等)、防除業者、ゴルフ場職員等66名が受講・受験し、63名が認定された。

研修会の内容：

- ① 植物防疫一般 (植物防疫・農薬行政) (県農業連携推進課)
- ② 関連法令 (農薬取締法、毒物及び劇物取締法)
(県農業連携推進課・医療薬務課)
- ③ 病害虫、雑草防除等 (県総合農試作物部)
- ④ 農薬管理指導士の任務 (県農業連携推進課)
- ⑤ 農薬一般 (農薬の種類、特性等) (県総合農試生物環境部)
- ⑥ 農薬安全性評価、各種基準 (県総合農試病害虫防除・肥料検査課)
- ⑦ 農薬の安全使用、危被害防止対策 (県農業経営支援課)

(4) 病虫害発生予察情報の印刷・配付

・ 33回 (3, 570部)

予報	12回
注意報	8回
特殊報	1回
防除情報	12回

(5) 農薬適正・安全対策資料及び防除対策資料の作成・配付

- ① 農薬適正・安全対策資料 500部
(農薬危被害防止研修会資料、植物防疫研修会資料)
- ② 農薬安全・適正使用啓発資料
 - ・ 農薬の適正使用 7, 500部
 - ・ 登録農薬の使用 7, 500部
 - ・ 農薬のドリフト防止対策 4, 000部
 - ・ 農薬使用記録簿 15, 000部
- ③ 病害防除対策資料
サトイモ疫病対策マニュアル・平成30年追補版 8, 000部
- ④ 平成30年版病虫害・雑草防除等指導指針 950部
- ⑤ 農業航空防除危被害防止・安全対策資料 50部
- ⑥ 農薬展示ほ成績書 100部

2 農薬展示ほ設置事業

県病虫害・雑草防除等指導指針や地域の防除暦策定の資料とするため、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)等関係機関の協力を得て、新たに登録あるいは適用が拡大された農薬を中心に展示ほを設置し、防除効果等の検討を行った。

表2 農薬展示ほ設置状況 ()は前年度

	部 門	農 薬 数	展 示 箇 所 数
農薬	水 稻	38 (45)	60 (70)
	大 豆	1 (0)	2 (0)
	茶	1 (2)	1 (5)
	野 菜	28 (48)	55 (85)
	花 き	3 (12)	6 (19)
	果 樹	6 (6)	17 (15)
	飼 料 作 物	2 (1)	5 (1)
	飼 料 イ ネ	8 (5)	17 (11)
資材	野 菜	2 (1)	2 (1)
	茶	0 (1)	0 (1)
	果 樹	0 (1)	0 (1)
	花 き	0 (2)	0 (2)
合 計	89 (124)	165 (211)	

表3 展示ほ検討会の開催状況 ()は成績検討会との同時開催

部 門	現地検討会	成績検討会	設置検討会	合計
水稲・飼料用イネ	2 回	2 回	1 回	5 回
野 菜		2	1 (1)	3 (1)
花 き		1	1 (1)	2 (1)
果 樹		1	1 (1)	2 (1)
茶		1	1 (1)	2 (1)
飼 料 作		1	1 (1)	2 (1)
合 計	2 回	8 回	6 (5) 回	16 (5) 回

表4 平成30年版「宮崎県病害虫・雑草防除等指導指針」採用農薬数

部 門	殺虫・殺菌剤	除草剤
水 稲	3	14
大 豆	1	0
飼料用イネ	0	5
野 菜	40	1
花 き	7	0
果 樹	7	0
茶	1	0
飼 料 作	0	1
合 計	59	21

3 農薬展示ほ事故対策補てん事業

農薬展示ほの実施によって発生した事故に係る損害の補てんを行うための事業であるが、適正な管理のもとで各農薬展示ほの設置が行われた結果、事故の発生はなかった。

- ・補てん金支払実績 なし

4 農業航空事業

航空防除を安全かつ円滑に実施するため、事業実施主体、航空会社及び農薬会社等と危被害防止並びに効率的な事業推進について協議を行い、安全対策の徹底を図った。その結果、平成29年度は事故もなく計画どおり終了した。

(1) 防除面積

作物名	実施団体名	防除時期	防除面積	対象病害虫
水 稲	こばやし農業協同組合	8月23日 9月 6日	100 ha 101.6ha	いもち病、ウンカ類、カメムシ類 ウンカ類、カメムシ類

(2) 危被害防止安全対策について

航空防除実施前に航空防除実施地区において、農業航空防止対策会議を7月

26日に開催し、危被害の防止対策と飛散防止等の安全対策について協議した。

場 所：小林市須木庁舎

参加者：実施団体、航空会社、農薬メーカー、小林市 他関係機関

内 容：航空防除に伴う危被害防止対策について
航空機運航上の安全対策について
散布農薬の特性と安全対策について

(3) 平成29年度農林水産航空事業有人ヘリコプター推進事業

有人ヘリを利用した事業を安全かつ効率的に実施するため、一般社団法人農林水産航空協会から助成を受け、実施組織の体制整備及び安全対策の普及啓発を行った。

交付額：JAこばやし（水稻） 40,000円

須木栗振興協議会 10,000円

内 容：危被害未然防止等会議の開催、安全対策広報指導活動、
地区別座談会での資料配付 等

5 農業航空事故対策補てん事業

航空防除事業は、危被害防止等の安全対策には細心の注意を払い実施しており、適正な管理のもとで航空防除が実施された結果、事故の発生はなかった。

・補てん金支払実績 なし

6 GAP推進事業

残留農薬違反などの農薬事故を防止し、農業生産活動を安全かつ安定的に実施するために、農薬の適正使用や農薬散布機の適正管理等について、県と連携して国際水準に対応した指導員の育成を進めるとともに、県版GAPである「ひなたGAP」の審査や普及啓蒙を図った。

主な実施事項

1) 指導員等育成実績

グループ	品 目	期 間	人数
第1期	青果物（1回目）	6月19日～10月11日	36名
第2期	青果物（2回目）	9月14日～12月20日	32名
第3期	茶	10月23日～ 1月19日	20名
第4期	青果物（3回目）	10月30日～ 2月19日	34名
計			122名

(参考)

指導員研修カリキュラム

区 分	研修内容等	日 数
ステップ1	J G A P 指導員基礎研修 (講師：民間コンサル機関) G A P の基礎知識の習得 (J G A P 指導員資格の取得)	2 日間
ステップ2	ひなたG A P 基礎研修 (講師：宮崎大学) ひなたG A P の理解、現地研修	1 日間
ステップ3	ひなたG A P 現地研修 (講師：宮崎大学) 前期：農家へのはいなたG A P 導入研修	各 1 日間
ステップ4	後期：ひなたG A P 導入農家での改善指導研修	
ステップ5	国際水準G A P 対応研修 (講師：民間機関) 産地リーダー研修 (講師：民間機関)	1 日間 2 日間

2) 平成29年度G A P指導者・審査員育成研修実績

所 属	人数
農業改良普及センター	37名
農林振興局	13名
専 技	8名
J Aグループ	31名
そ の 他	33名
合 計	122名

3) ひなたG A P現地審査

- 第1号 12月 高鍋町のキャベツ栽培農家 (2月認証)
- 第2号 3月 日向市のへべズ栽培農家
- 第3号 3月 日南市北郷町の茶栽培農家